

日本物理学会九州支部 50 周年に際して

澁谷 喜夫

日本物理学会も設立後 50 年を閲したそうで、転た今昔の感に堪えない。敗戦後の昭和 21 年 (1946) 4 月、日本数学物理学会が解散となり、日本物理学会が誕生した。しかし当時国中が虚脱状態にあったので物理学会の活躍は華々しいものではなかった。

九州支部も同時に発足したろうが、筆者は当時東北大学金属材料研究所に勤務、東北支部に所属しておったので、九州支部の初期については審らかでない。東北支部の発表会は年に一、二回土曜日の午後開かれた。演題は四ツ、五ツ、集まる人は 50 人位、それだけに発表会には家庭的雰囲気があった。筆者もその席で 2、3 回発表した記憶がある。九州支部の状況も似たものであったろう。

戦前、物理学科は旧制七帝大、東京、広島の両文理大にあるだけだったので、物理人口は極めて少なかった。勿論、物理学は物理学科卒業生だけの専有物ではなかったが、会社の研究員を合わせても会員数はさほど多くなかった。

敗戦後の昭和 22 年 (1947)、新学制の実施とともに各地に所謂新制大学が誕生したため物理学徒は急激に増加した。しかし新制大学の充実を見るまで、学会活動は旧制帝大系、文理大系、会社の研究所が中心であった。

筆者は昭和 35 年 (1960) 九州大学理学部物理に着任し、九州支部会員となった。その当時支部例会での発表件数は少なく、年会発表に備えて院生の講演練習の場であるような感があった。しかし年度、題目は忘れたが、鹿児島で開かれた例会で鹿児島大学 N 先生のグループが発表された半導体研究は一級品であった。それで夜の懇親会の席で絶賛の辞を述べた記憶がある。

星霜の移り変りとともに、大学だけでなく会社の研究機関も整備されてきた。支部会員も 850 名近くに殖え、発表内容も充実し、件数も 1 日の会期では賄い切れなくなっている現況は、まことに慶賀の至りである。今後九州支部の益々の発展を祈念する。